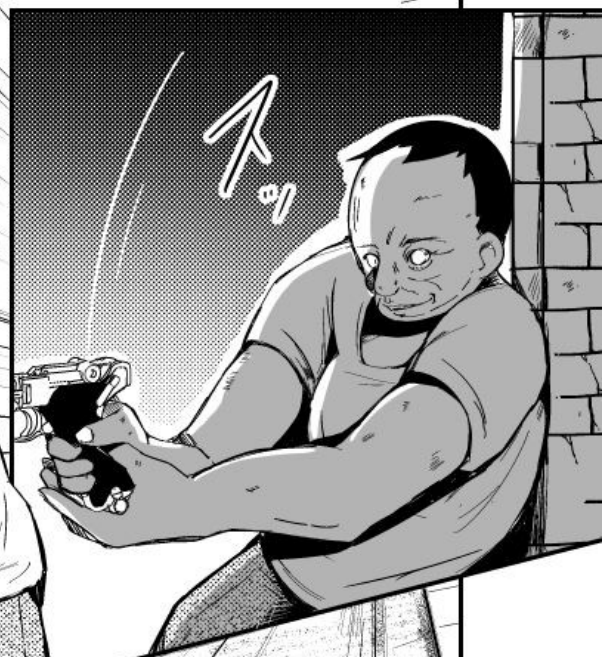
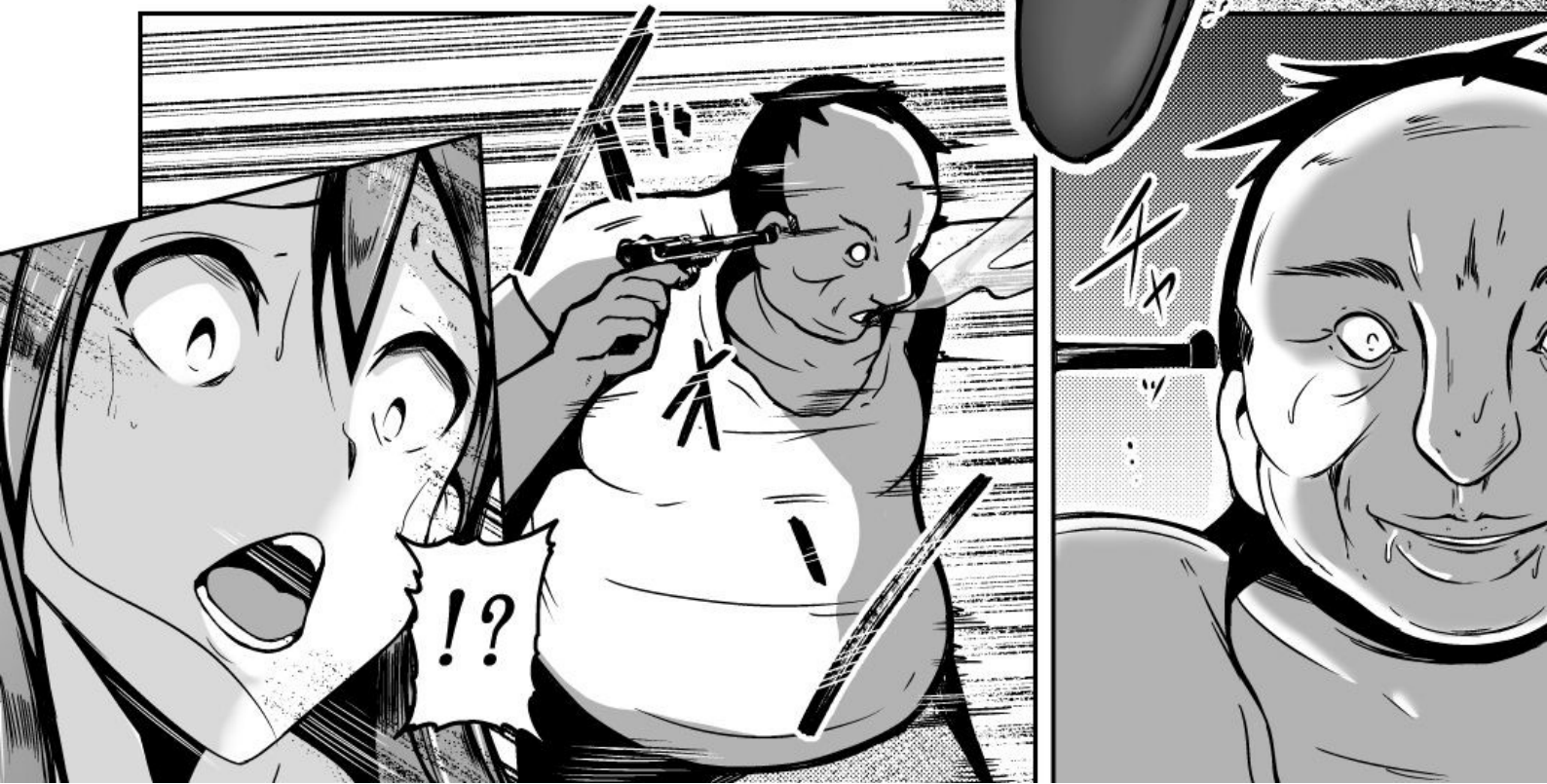
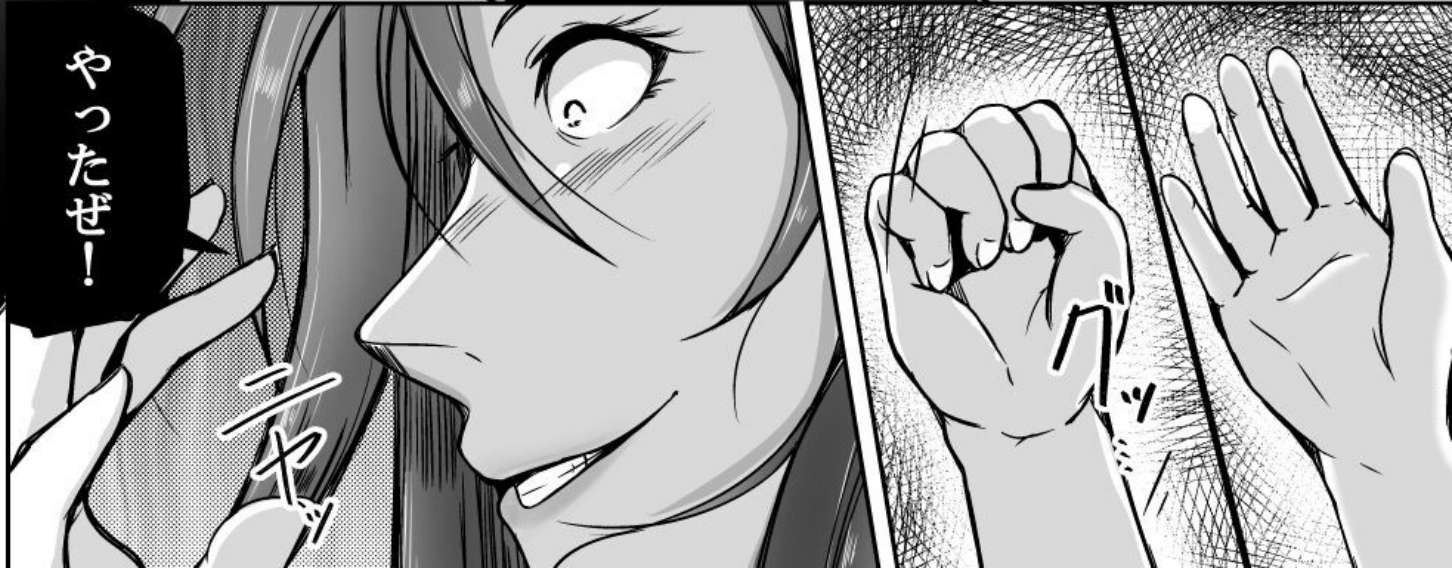












やっほー!!

成功だ!

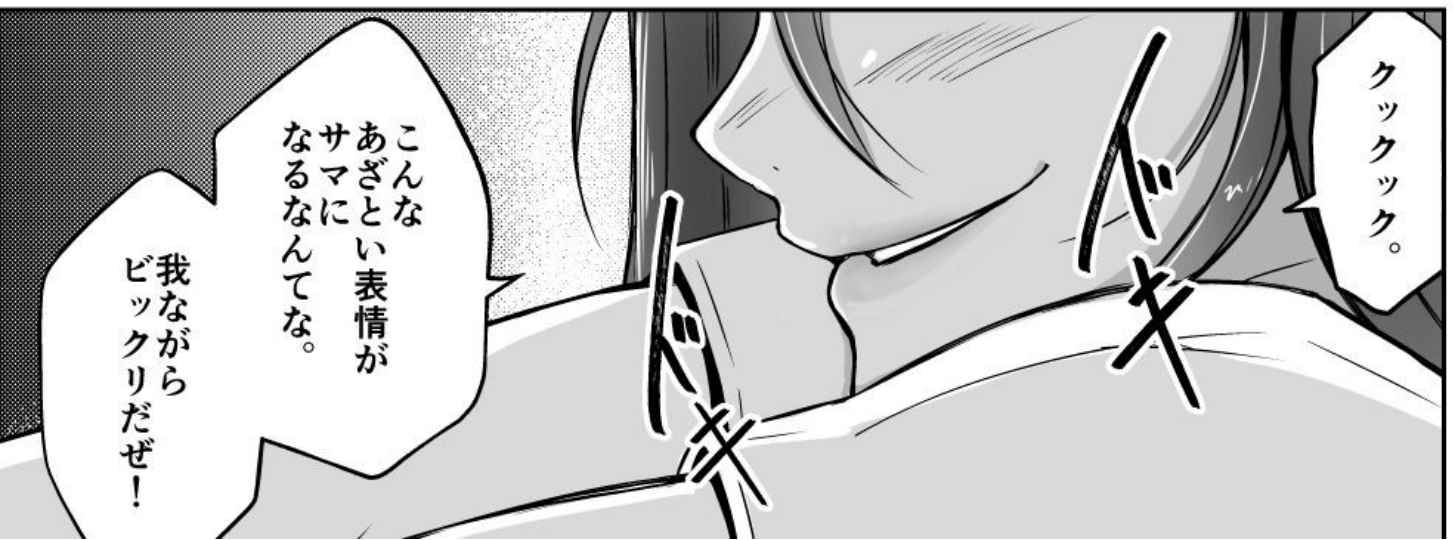
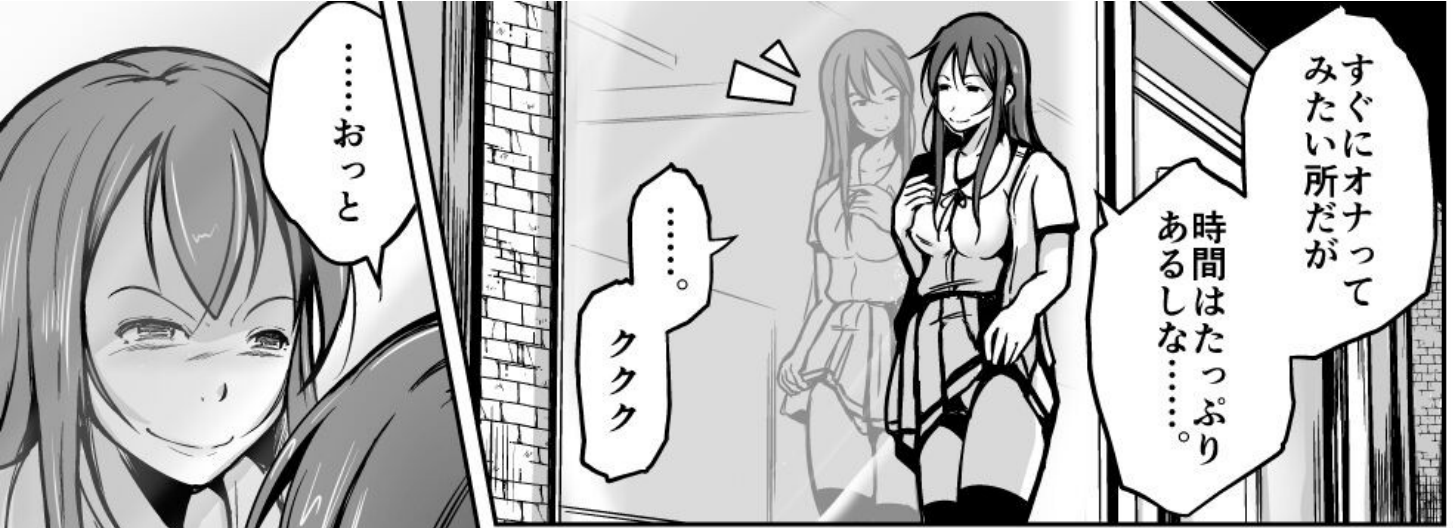
これが  
オンナの身体……

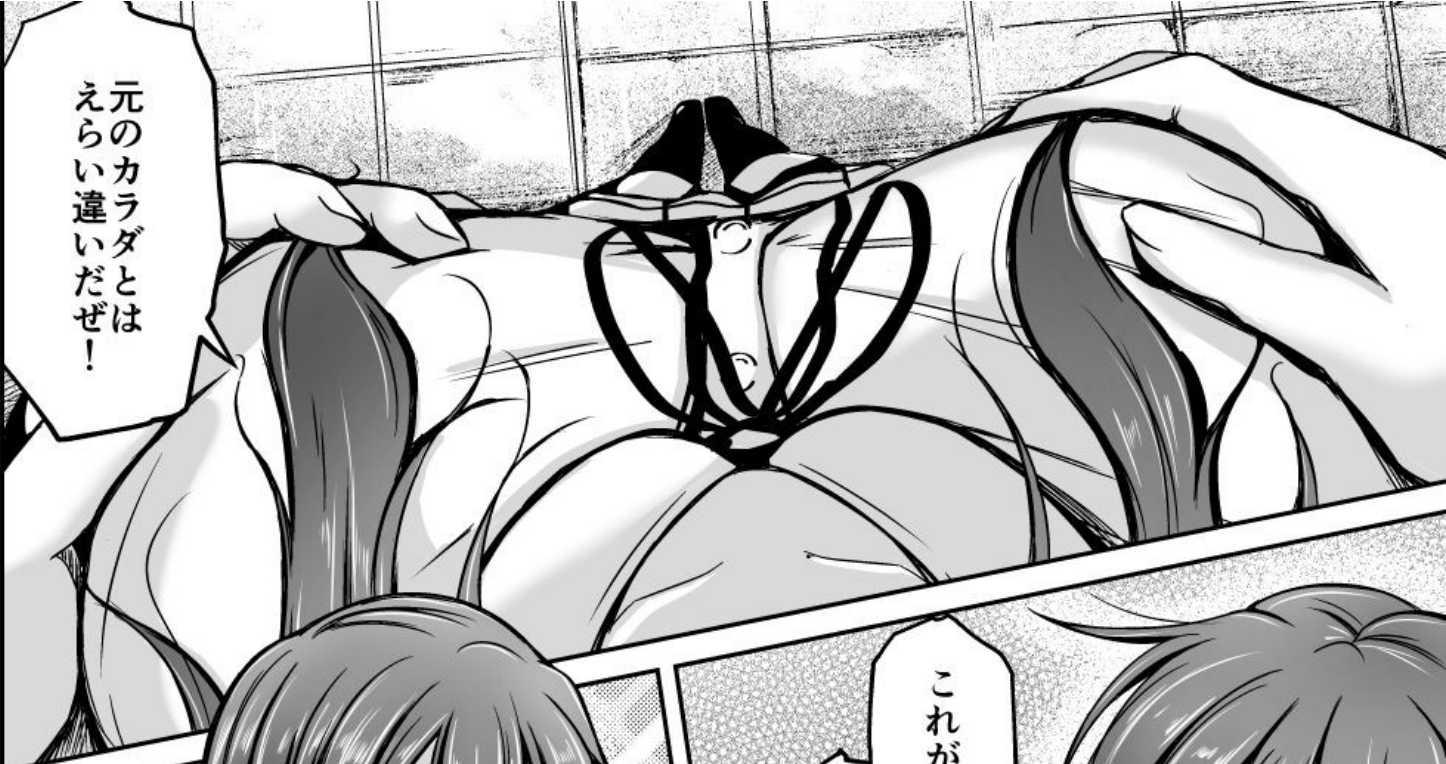
まさか!

……どうして

私が  
動いているの?

くっくく





元のカラダとは  
えらい違いだぜ！



これが……

このオンナが



俺だと思うだけで  
コーフンする！！

はっ？

それにしても……

ニーソックスの  
締め付ける感じ……

窮屈なのに  
快感を覚える。

ああ、そうか。

姿だけじゃない！

肌触り・匂い  
そして声

原因はナイロン素材の

頼りなくも優しい肌触りか……

毛のないスベスベの肌が  
それを余すことなく  
伝えてくれる。

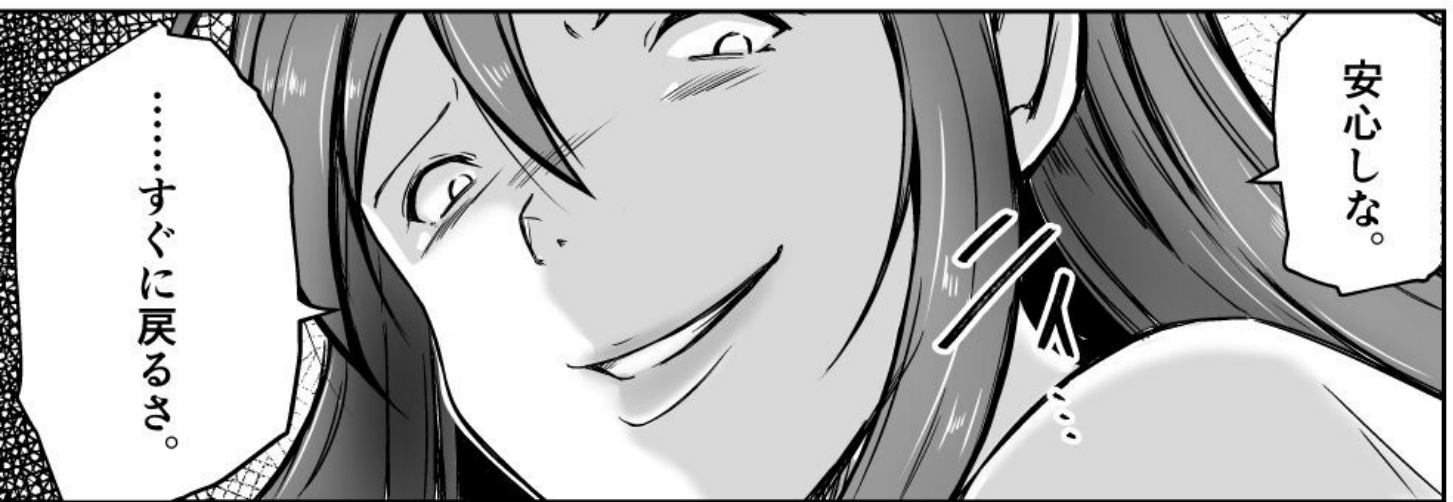
男では絶対に  
感じられない快感！

あらゆる感覚が

俺がオシナであることを  
自覚させてくれる！

そう、俺は女！

女なんだ！



魂と身体は  
互いを引き寄せる。

今ここに  
空っぽの身体と  
魂があるわけだが

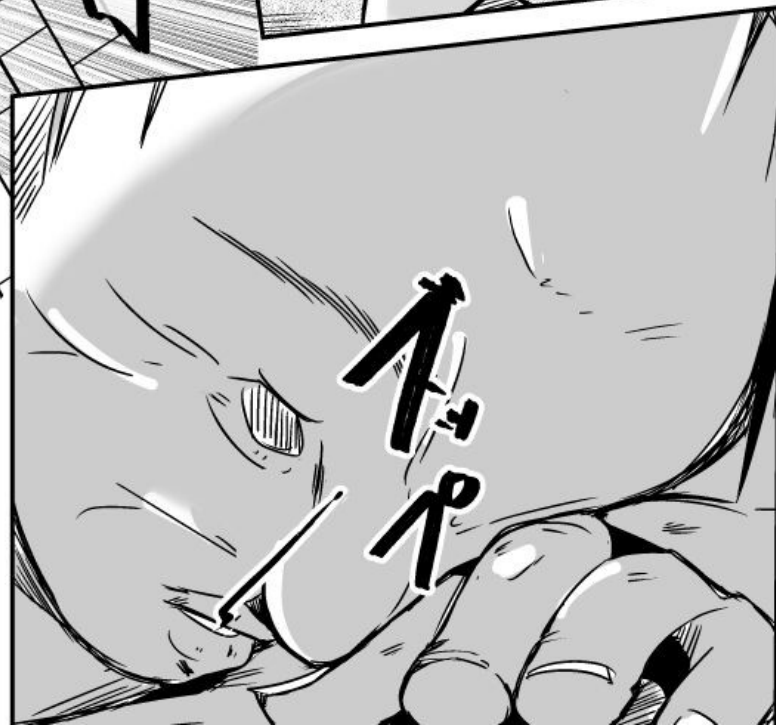
テメーみたいに  
見た目しか

取り柄が  
無い人間でも

まさか！

嫌！  
それだけは絶対に嫌！

どうなるかくらい  
容易に  
想像できるだろう？



ああ……

これが……

私？

そうだ。

それが  
お前の新しい身体だ。

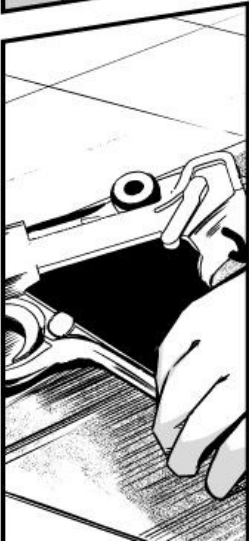
きゃっ！

どうだ？

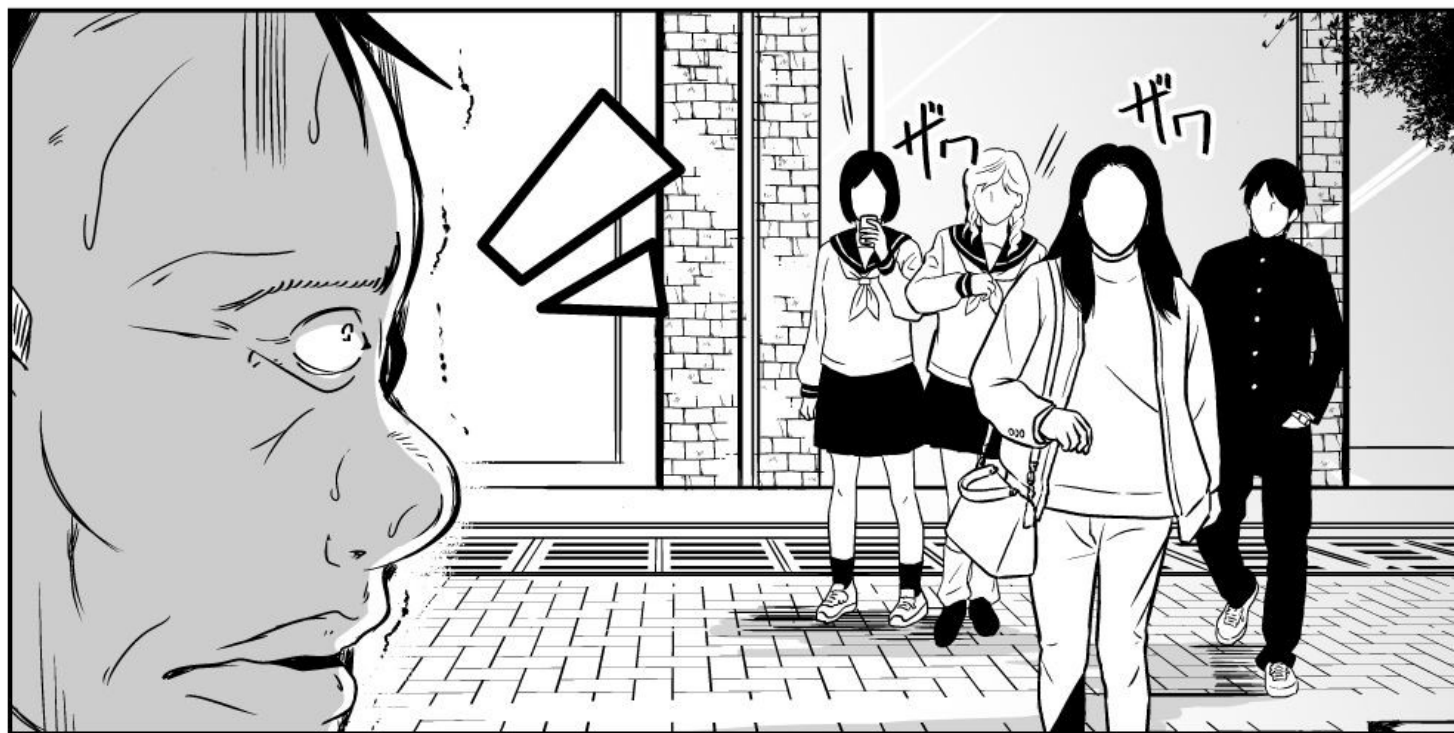
元、俺の身体は？

気に入って  
くれたかな？

……さして









やはり  
我が家は落ち着くねえ。

ここなら  
誰の邪魔も入らないし

思う存分コイツの身体を  
堪能できるぜ！



まずは視覚を  
楽しませてもらうか。

そのために  
わざわざ姿見まで  
事前に  
買ったのだからな。

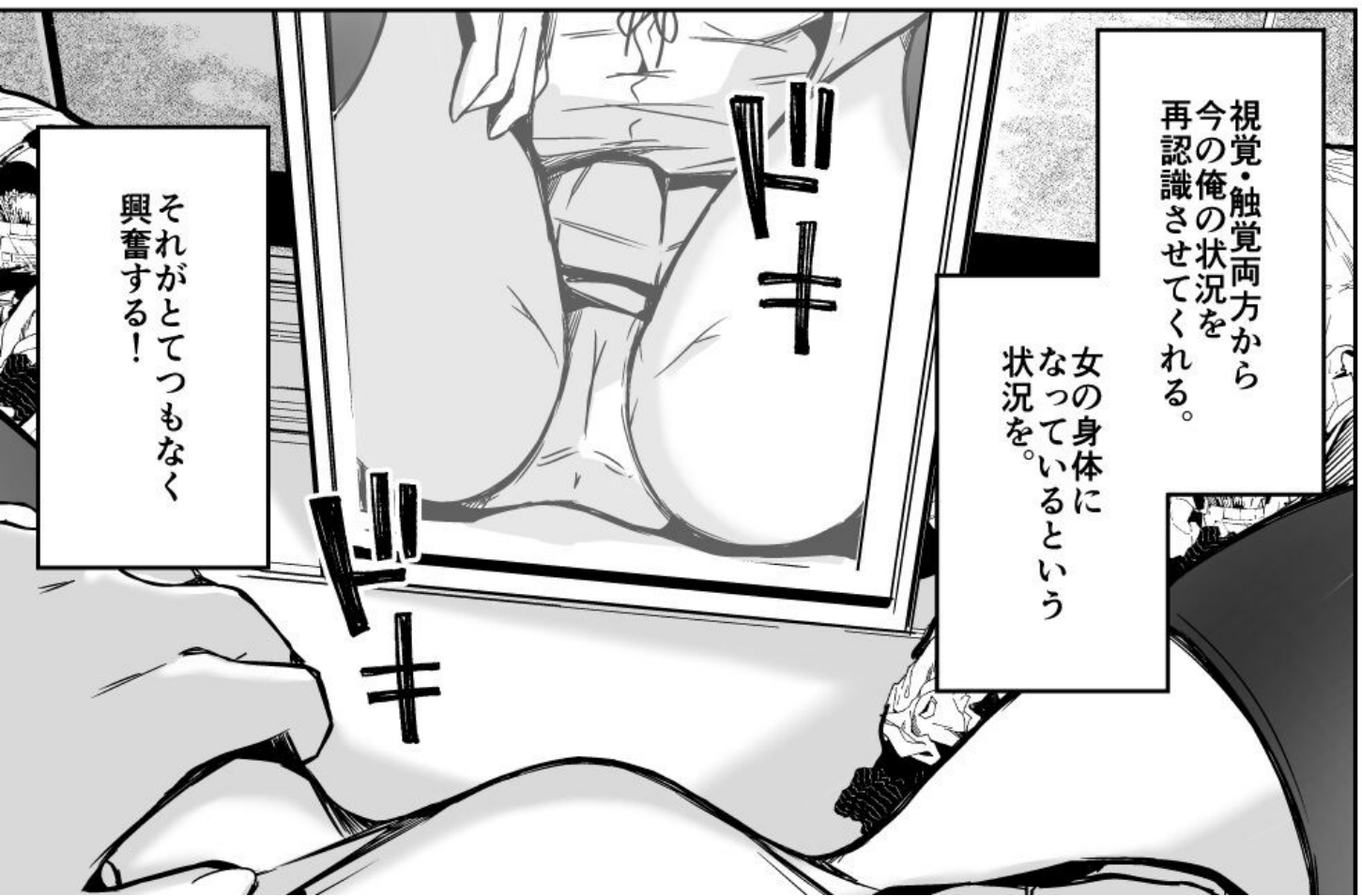
スラリとした  
細くて長い脚を

揺れる度に  
スカートが太ももを

擦る感覚が  
くすぐったい。

動かすと同時に  
スカートも揺れる

ふわっ





うひひひ。

ポ  
ン  
ッ

うおっ！

凄っ！  
ブラを外したと同時に  
のしかかる重み！

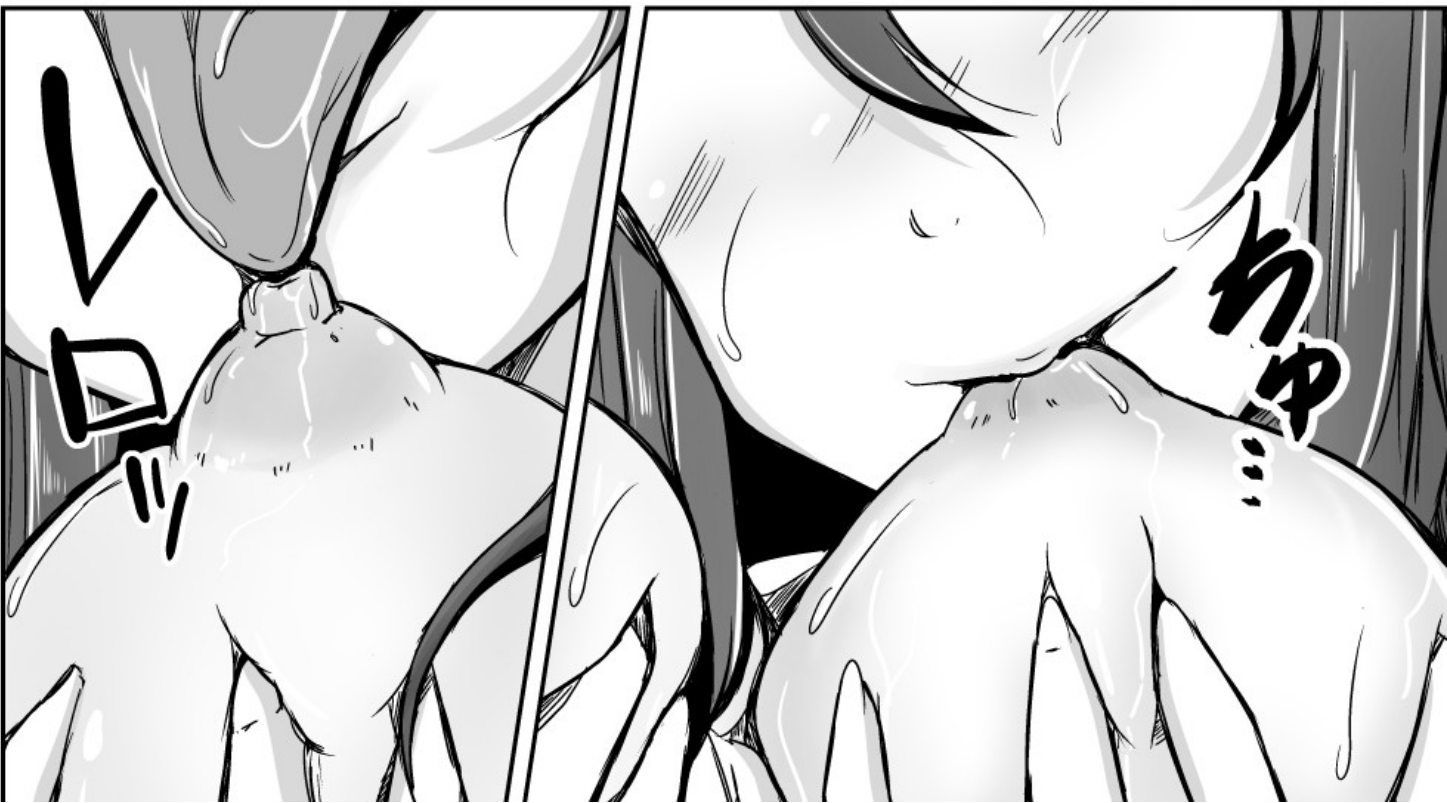
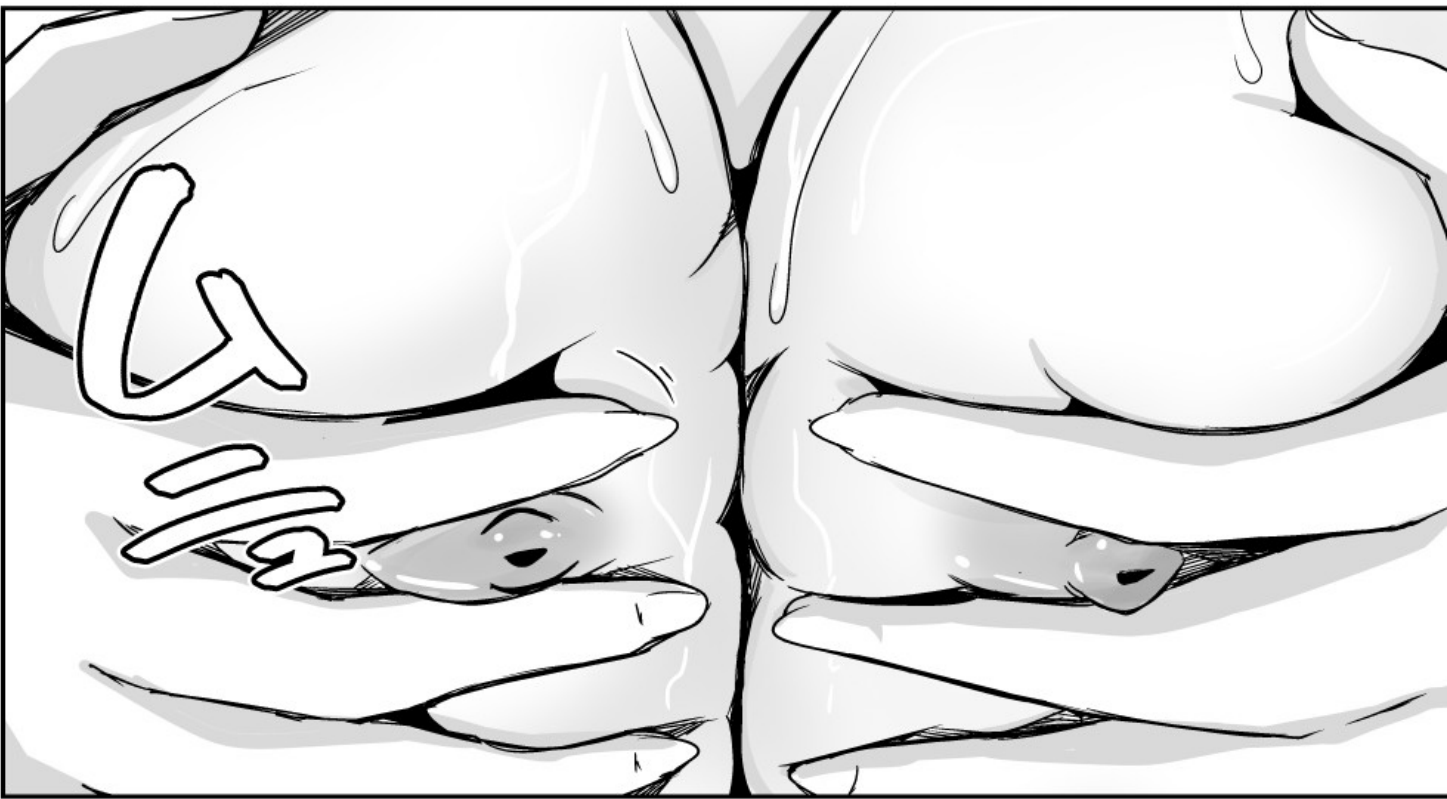
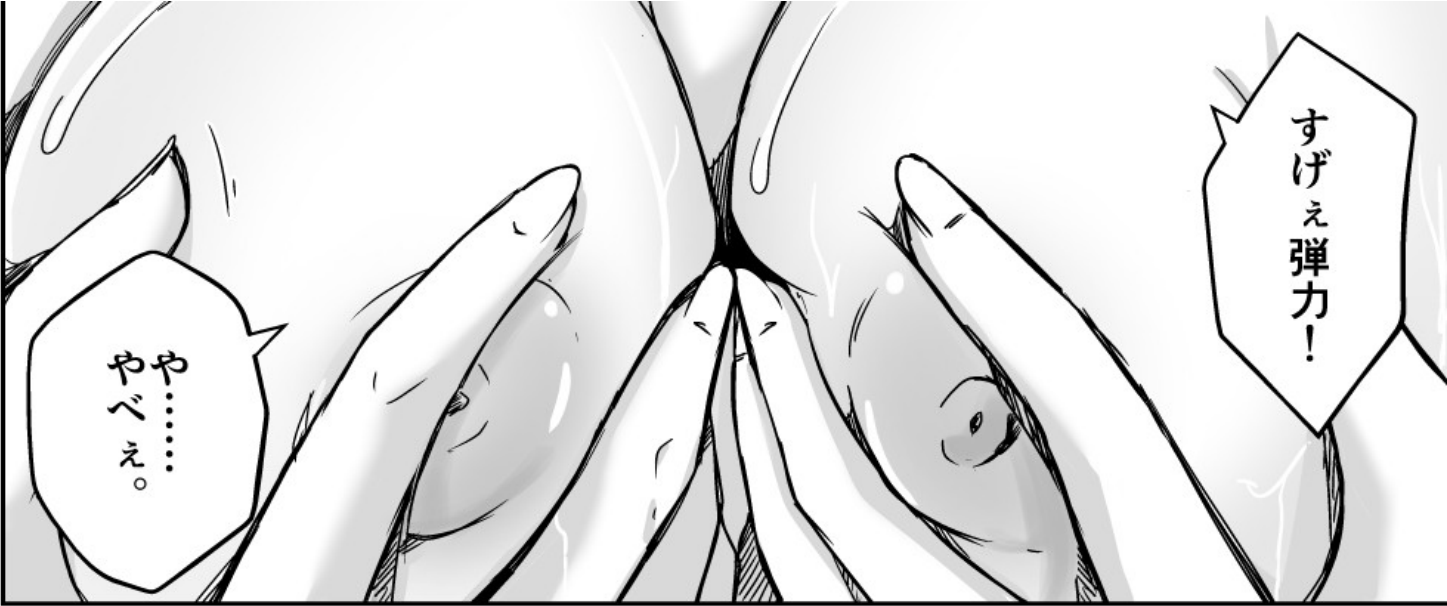
や、やわらけえー。

これ、本当に  
俺のおっぱいなんだなあ。

柔らかくて  
スベスベで

ずっと  
触ってられそうだ。

もわっ





乳首の感度  
やべえ……。

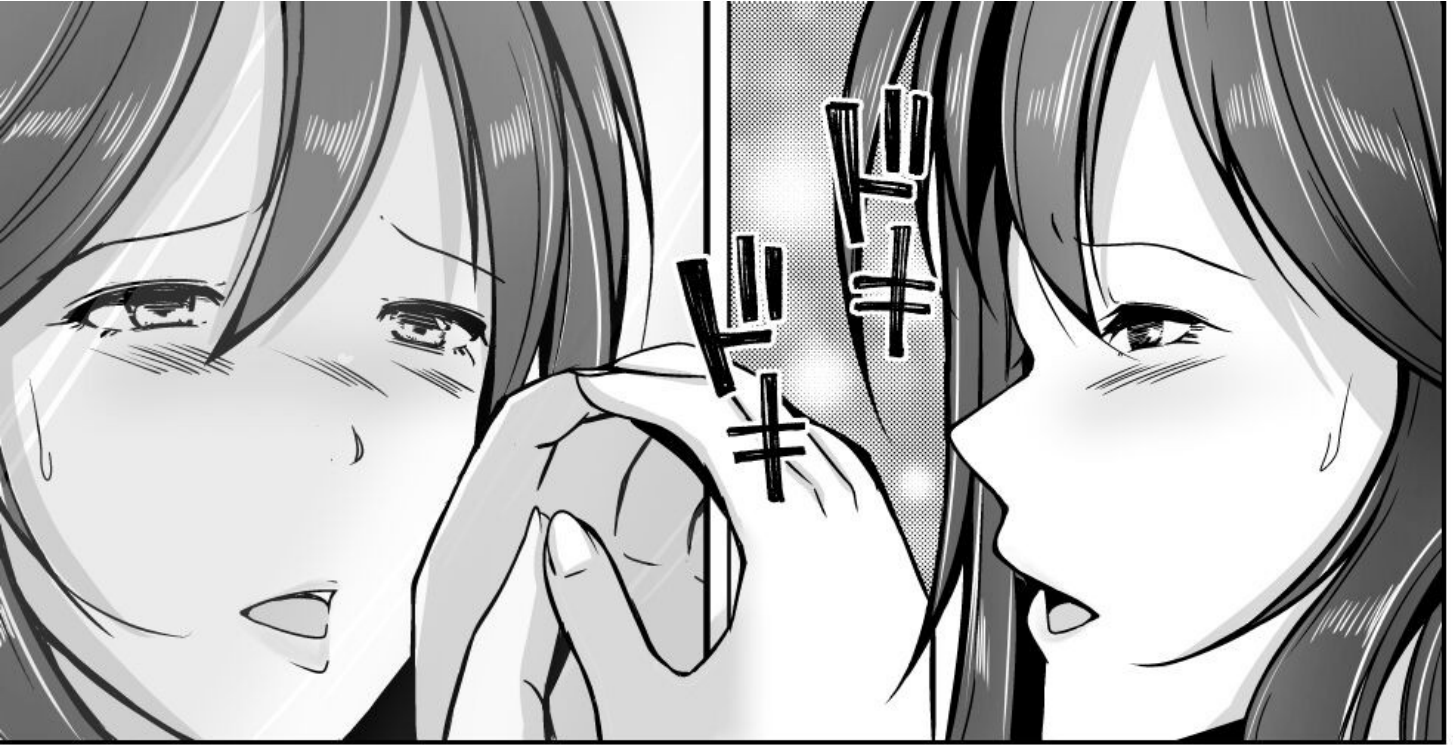


まるで  
おっぱいの先端に

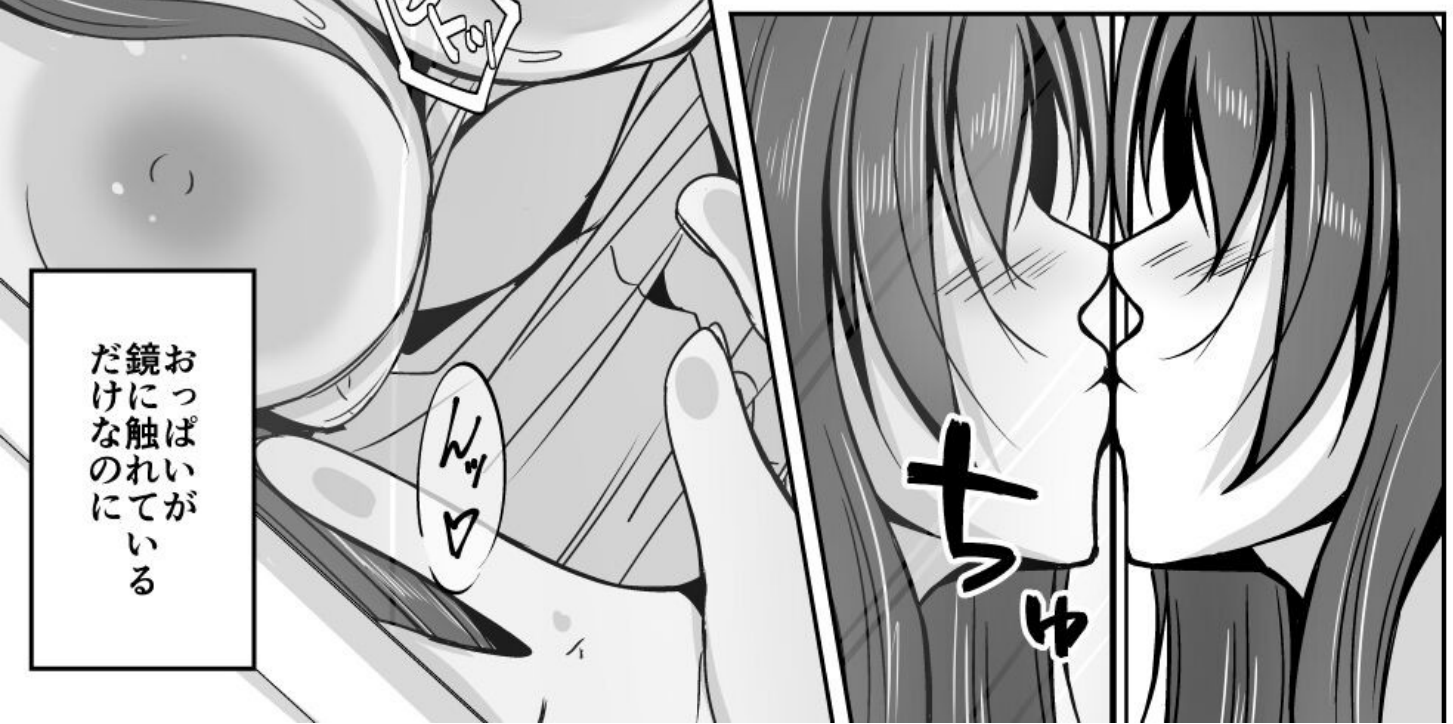


ちっさいチンコが  
ついてるみたいだ。





女の身体って  
凄く敏感だ。



おっぱいがある  
鏡にだけ触れている

柔らかさ  
冷たさが  
明瞭に伝わってくる

ダメだ！  
もう我慢できねえ。

トキ

トキ



おっぱいで  
この快感だったら



こっちは

どれほど  
感じるのだろう？

ククク。  
ついに待ち望んだ

女のオナニー。

さて、  
どれほどのものか。

ドキ  
ドキ  
ドキ

当たり前だが  
股間に何もない。

この突起。  
クリトリスか？

こんなにも  
興奮しているのに

勃つものがないって  
変な感じだ。

——はっ!!





女のチンコなんて  
例えられるが  
比にならねえ。

比べるのは  
失礼ってもんだあ。

パンツ越しでも  
コレなんだから







重みで  
他の部位よりも  
遅れて動く。

おっぱいが  
あるって  
こんな感じなんだな。

さて、そろそろ  
直接手で……！



チンコの感度を  
一点に  
凝縮したような  
強烈な快感！

全身に快感が  
駆け巡って

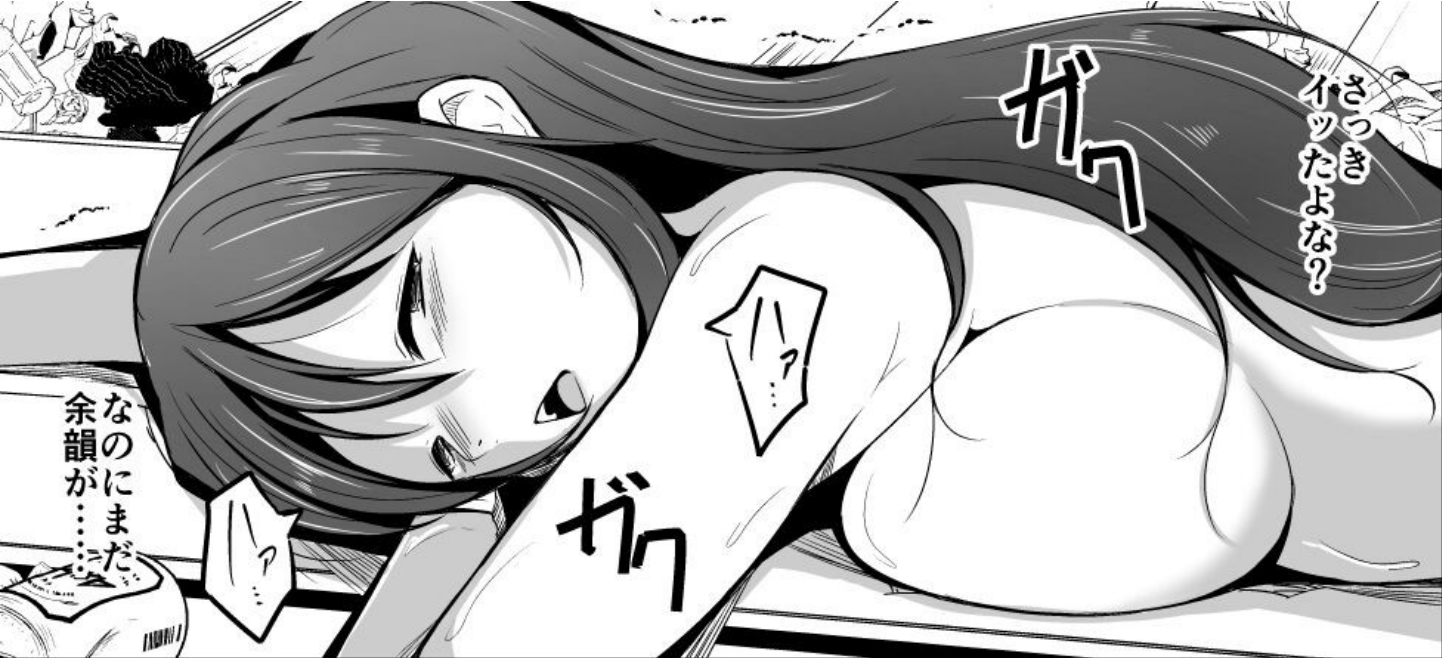
さっきから  
全身がビクビクして  
止まらねえ！

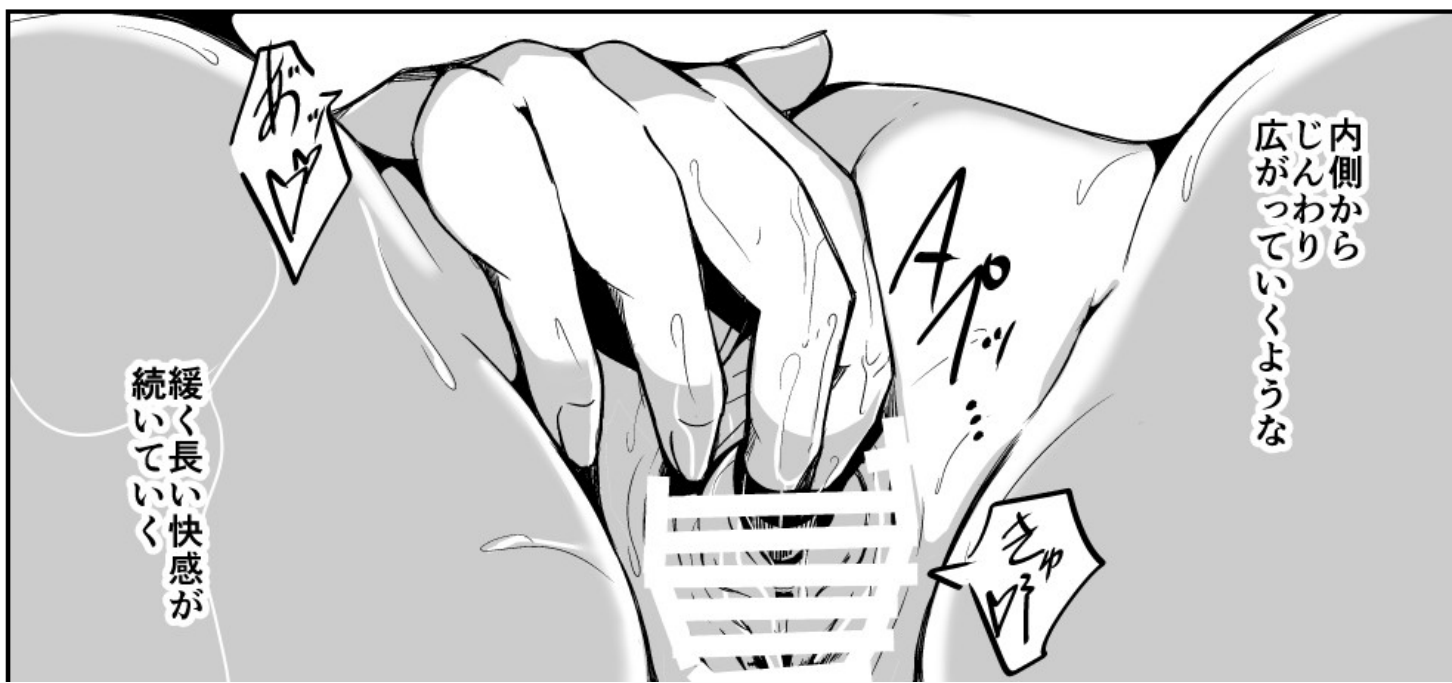
今までで

一番大きな波が！

——  
来るっ！









ここ!  
気持ちいいっ!

女ってすげえ。

うわあ  
うわあ

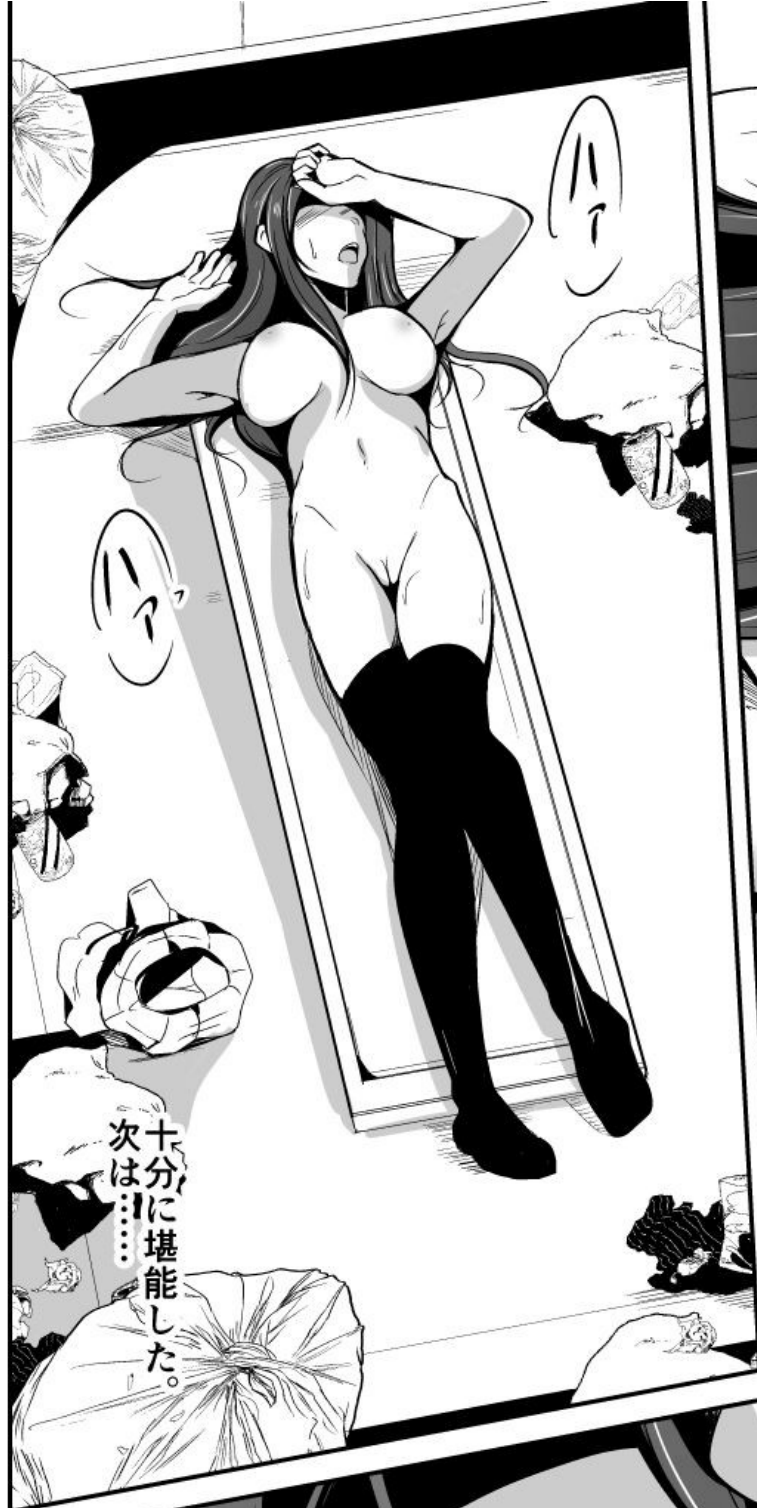
快感が絶えず  
波のようだ!

こんなの  
ずっと

続けでしまい  
そうだぜ!

あー

あー



十分に堪能した。  
次は……



素晴らしい。  
これが女の自慰。



相手が欲しいな。